

◆ 江東都税事務所長賞 ◆

「被災地復興のための税金」

江東区立大島西中学校3学年 板橋 凜

私の祖父母の家は、宮城県東松島市にある。遊びに行った際に感じたのは、街は全体的に新しい建物が多ということ、道路が綺麗に整備されているということだ。ここまで復興するには、大変な苦勞があったと聞く。

東松島市は、東日本大震災の被災地である。地震による被害に加えて、津波による被害も甚大であった。地震で道路は割れ、家の中ではありとあらゆる物が落下したそう。そこへ津波まで押し寄せて、全てを滅茶苦茶にしていった。祖父母はなんとか生き残ることができたが、今後一体どうやって生きていけばいいのかと悩んだという。

そんな苦しい被災地の祖父母を助けてくれたのが税金である。震災後もなんとかして生きていかなければならない。祖母に話を聞くと、

「生活補助金や見舞金をもらったし、家の解体や建築の費用も助けてもらえて助かった。」と言っていた。個人の生活に関わる事以外にも、道路や堤防の工事にも税金が使われ、街は活気を取り戻していったという話だった。

税金が投入されたのは、そういった再建という分野だけではない。震災後に被災地に駆けつけて、救助活動や捜索活動に携わった自衛官、消防の方々、停電で止まった信号機の代わりに交通整備をしてくれた警察官なども、税金によって派遣されていた。避難所になった公立学校や役所も税金によって運営されていた。このように、被災地復興のために税金が使われていることがわかった。

平成24年度から、東日本大震災復興特別会計が創立された。これは、復興事業に関する国の経理を明確にするためのものである。令和5年度復興特別会計では、7,301億円の予算が組まれている。このように大きな額の予算が組めるのも、税金ならではである。

東日本大震災のような大きな災害は、私の住む東京でも起こりうる話だ。決して他人事ではない。もしもに備えて、東京都のホームページを確認した。災害発生時の対応や震災復興の取り組みについて読んだが、やはり税金による支えがあってこそのものだと感じる。様々な派遣要請や、飲料水、食料の供給なども税金によるものだと気付いた。

私は東日本大震災当時2歳だったので、地震のことも記憶にないが、祖父母の話や当時の映像から、震災の恐ろしさを思い知る。もしも税金という仕組みが無かったら、一体どうなっていたらだろうか。これまで税金については、勝手に取られていくものというイメージしかなかったが、興味を持って調べていくとイメージが変わった。税金は困った時に助けてくれるものだと知ることができた。税金を有効的に活用していくためにはどのようにすればよいか、私たち一人一人がしっかり考えていかなければならないと考える。これは誰かに任せておけばいい話ではなく、自分の問題だ。